様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　24 年　5 月　15 日現在

機関番号：１２３０１
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：２００９～２０１１
課題番号：２１５２０７８９
研究課題名（和文）メディア分析による近代日本におけるツーリズムの展開に関する研究

研究課題名（英文）Study on the Development of Tourism in Modern Japan through Media Analysis

研究代表者
関戸　明子（SEKIDO　AKIKO）
群馬大学・教育学部・教授
研究者番号：５０２０６６２９

研究成果の概要（和文）：
本研究は，新聞・旅行案内書・リーフレット・鳥瞰図・広告・写真などの多様なメディアを分析することで，近代日本におけるツーリズムの展開過程を考察することを目的とした。鳥瞰図を例にすると,近代化を象徴するイベントを伝える図像が積極的に取り入れられていたこと,表現内容には観光地としての変化が反映されていたことを明らかにした。本研究では，これまで十分に活用されていなかったメディアが有用な分析資料となることを示した。

研究成果の概要（英文）：
This study aimed to look at how tourism developed in modern Japan via an analysis of various media sources including newspapers, tourist guidebooks, leaflets, bird's-eye view images, advertisements, photographs and more. A number of the bird's-eye view images studied featured events symbolizing modernization with descriptions that reflected how the areas depicted had become tourist sites. The study revealed the research value of heretofore underutilized media sources.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	1,000,000	300,000	1,300,000
２０１０年度	700,000	210,000	910,000
２０１１年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総　計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：人文地理学
科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学
キーワード：ツーリズム，メディア，鳥瞰図，絵はがき，旅行案内書

１．研究開始当初の背景

研究代表者は，2007 年に『近代ツーリズムと温泉』（ナカニシヤ出版）を刊行し，温泉案内書や新聞などのさまざまなメディアを読み解くことで，温泉地の観光地化の諸相を明らかにした。そこでは，内務省衛生局編纂の『日本鉱泉誌』にはじまる一連の官製報告書や鉄道省編の『温泉案内』，民間で製作されたガイドブックの系譜を丹念に跡づけた。また，交通機関の整備状況や入浴客数のデータを精査することで，温泉旅行が大衆化していく過程を実証的に示し，ガイドブックの記載内容との関係についても言及した。本書においても，多くの写真やリーフレットなどを活用したが，方法論的な検討が十分でなく，その図像の読解のあり方については，今後の課題として残された。

本研究の分析方法と重なる先駆的な業績としては，中川浩一（1985）『旅の文化誌』，同（1990）『絵はがきの旅　歴史の旅』があげられる。また，開始当初の先行研究としては，富田昭次（2003）『ホテルと日本近代』，同（2008）『旅の風俗史』，橋爪紳也（2006）『モダニズムの日本』，細馬宏通（2006）『絵はがきの時代』などがあって，近年のビジュアル・メディアに対する関心の高まりを感じることができた。ただし，これらはいずれも，絵はがきやリーフレットなどを多用して，興味深いエピソードを積み重ねているが，通時的な地域変化を跡づけたものではなかったり，ツーリズムに重点を置いたりしたものではない。

そこで，本研究では，メディアを分析する方法について広く検討し，自らのテーマに組み入れていくことで，近代日本を対象としたツーリズム研究の成果をさらに発展させることを目指した。

２．研究の目的

本研究では，温泉地などの非都市地域において行われたさまざまな余暇活動の場所に視野を広げて，メディアを多角的に分析することによって，近代日本におけるツーリズムの展開過程について考察することを目的とした。

ツーリズムは，規則化や組織化された労働を前提とするレジャー活動であり，日常の場所の外にある土地でなされる（John Urry (1995) *Consuming Places*）。労働時間のなかから余暇の時間を作り出し，居住地から離れる旅は，伊勢参りのように，近世においても実践例はあったものの，それは一生に一度あるかないかのイベントであった。ツーリズムの拡大には，メディアによる観光情報の普及，経済的に豊かで休暇を取ることのできる人びとの増加，安全に早く移動できる交通基盤の整備，受け入れ地におけるサービスの充実などの条件が必要とされる。これらの条件の整備は近代において実現したものであり，ツーリズムは近代を象徴する社会現象といえる。

本研究では，具体的には，新聞・報告書・旅行案内書・リーフレット・鳥瞰図・写真・広告などの多様なメディアを分析することで，近代日本におけるツーリズムの展開過程を考察する。そのなかで，分析手法・方法論の検討を行いつつ，①明治期のエリートによるツーリズム受容，②大正期以降のツーリズムの大衆化，③戦中期の厚生運動とツーリズムといったサブテーマを設定し，それぞれの研究年度において，重点的に研究を進めることとした。これらの課題に関しては，教科書的な説明で言及されているものではあるが，本研究では，これまで知られていない事例を発掘し，メディアを活用することによって，近代日本という時間と場所のなかで，ツーリズムの諸相

が具体的にどのように顕在化したのかを実証的に究明することを試みた。

３．研究の方法

旅行案内書については，国立国会図書館の近代デジタルライブラリーで公開されているものをベースに，地元の公立図書館で調査したり，古書市場から入手したりして，対象地域に関するデータを充実させる。

新聞については，読売新聞・朝日新聞は明治期初期から発行されたものはデータベース化されているので，それを活用し，それ以外の新聞記事についても，マイクロフィルムの閲覧によって必要な情報を適宜集める。

一枚ものの鳥瞰図は，図書と異なり，各種図書館に収録されているものは限定的であり，書誌事項についても不完全なことが多い。研究代表者は，伊香保・四万・熱海の鳥瞰図を対象とした論考をまとめており，それ以外の地域についても，資料調査の蓄積がある。鳥瞰図に関する先行研究が数少ない中では，限定的な事例ではあっても，書誌事項を丹念に整理し，データベースを構築することが有効であるとの認識をもつ。それによって，絵師などの著作者や出版元などの制作者たちが各地域でどのように活動していたのかが，みえてくるからである。あわせて，古文書研究や絵図研究で行われてきた，資料批判の過程が必要となる。

古写真については，近年関心が高く，博物館や地方出版社などから各種刊行物がまとめられており，大学図書館などでデジタルアーカイブを公開しているところも増えている。それらを有効に活用しつつも，本研究では，独自に絵はがきの収集を進めていく。観光地の絵はがきは，セットで販売されていることが多かった。そこで，その組み合わせを分析することで，観光地を代表する景観にどのような特徴があるのかを考察したい。

上記にとりあげていない，その他メディアについても，対象とする事例に関するものは，積極的に取り込んでいく。

４．研究成果

公刊した主要な成果は，発行順に以下のようにまとめられる。

図書(3)「戦前期における鉄道旅行の普及と草津温泉の変容」(『観光の空間−視点とアプローチ』ナカニシヤ出版，2009)では，統計・案内書・リーフレットなどを活用して，鉄道の発達とともに草津が湯治場から観光地へと変容していく過程を捉えた。

雑誌論文(3)「名所絵はがきを読む」(歴博 158，2010)では，伊香保と草津の二つの温泉を事例として，絵はがき・鳥瞰図の分析による景観変遷の読解と，絵はがきの画像を利用する際の留意点や課題について論述した。

図書(1) 「コモンズとしての温泉」(『地下水流動−モンスーンアジアの資源と循環』共立出版，2011) では，共有資源としての温泉の特徴と集中管理のあり方を論じた後，草津温泉を事例として，共同浴場と源泉管理の仕組みの歴史的変遷について，壬申地券地引絵図や近代の旅行案内書などを活用して明らかにした。

雑誌論文(2)「絵はがきから草津温泉の景観を読む」(えりあぐんま 17，2011) では，草津温泉を事例として，大正ー昭和初期にかけて多様な絵はがきセットが発行されており，温泉街よりも周囲の景勝地を多く取り上げていること，交通機関の整備とともに次第に周遊観光地が含まれるようになったことなどを明らかにした。また，時期の異なる絵はがきの風景写真を検討することで，既存の地域史に記述されていない事実を見出すことや，文書には詳細が記録されない具体的な歴史的景観の変遷をたどることができた。このように研究資料としての絵はがきの価値

を見出し，今後の研究の方向性を示した。

雑誌論文(1)「鳥瞰図にみる近代−草津温泉を事例に」（歴史地理学 54-1，2012）では，まず鳥瞰図に関する研究動向を整理した。そのうえで，近世から昭和初期まで継続的に刊行され，出版点数が多く，経年的な変化をたどることができる草津の鳥瞰図を事例として考察を進めた。

19 世紀初期，江戸や京都を描いた都市鳥瞰図が流行するなかで，草津においても温泉街を俯瞰する図が 1820 年代から刊行されるようになった。鳥瞰図の視点は北東から南西を向き，湯畑の末端にあった打たせ湯を手前に，薬師堂を奥に描く構図が定番となっていた。鳥瞰図の伝統的な構図は，明治に入っても継続的に用いられた。このような構図から脱却して，より高い視点から温泉街の広がりを一望の下に描いたのは，1903 年の図であった。さらに 1910 年代から 1920 年代にかけては「真景図」のタイトルのもと，酷似したデザインの鳥瞰図の発行が続いた。

鳥瞰図には，電信・電話・電気や自動車の導入といった近代化を象徴するイベントがあれば，それを伝えるための図像が積極的に取り入れられていた。また，草津の特色である多くの共同浴場は，温泉の成分や効能の案内とともに，鳥瞰図に描かれており，改廃などの実態を忠実に反映していた。

文字注記は，共同浴場，名所，寺社，町名などに限られていたが，のちに旅館や商店などにも付されるようになった。一般の住戸にはみられず，あくまで，旅行客に向けての案内が主題となっていたといえる。また，文字注記が建物に網羅的に付されるようになるのは，20 世紀に入ってからであり，湯治場から観光地へと次第に変容を始めた時期と対応している。

以上のように，鳥瞰図が景観復原の有用な資料となること，文字記録に残されていない地域の実態を探る手段となることを明らかにした。また，構図や描写内容には，温泉の利用形態，交通手段の変化などとの関連がみられることを論じた

このほか，長野県立歴史館の秋季企画展「観光地の描き方−−浮世絵版画から観光パンフレットまで」に協力し，図録への寄稿（図書(2)「吉田初三郎の鳥瞰図に描かれた信州の温泉」）と講演（「近代の観光と信州の温泉地」）を行った。また，国立歴史民俗博物館の企画展示「風景の記録−−写真資料を考える」の展示プロジェクトにかかわった。これらによって研究成果を社会に発信した。

なお，研究資料を紹介するホームページについては，随時更新を行ってきた。鳥瞰図をスキャナーで取り込んだ画像資料に簡便な解説を加えたものを中心にしており，今後も充実を図っていく。

ツーリズム全般に対する社会的な関心の高まりをみても，今後も継続して，鳥瞰図や写真などのビジュアル・メディアを活用したツーリズム研究を，地理学の立場から発信することの意義は大きいと考える。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　4 件）

1. 関戸明子「鳥瞰図にみる近代−草津温泉を事例として」歴史地理学 54-1，2012，23-53 頁，査読有
2. 関戸明子「絵はがきから草津温泉の景観を読む」えりあぐんま 17，2011，43-56 頁，査読無
3. 関戸明子「名所絵はがきを読む」歴博 158，2010，7-11 頁，査読無

〔学会発表〕（計　4 件）

1. 関戸明子「鳥瞰図にみる近代−草津温泉の事例を中心に」歴史地理学会大会シンポジウム，2011 年 6 月 26 日，山口大学
2. 関戸明子「近代における温泉地の景観を読む−絵はがきと鳥瞰図の活用」群馬地理

学会大会，2010 年 11 月 6 日，群馬県立前橋商業高校

3. 関戸明子「近代における温泉の利用実態－行政資料と絵地図の考察から」総合地球環境学研究所・日本地下水学会共同ワークショップ，2010 年 3 月 2 日，総合地球環境学研究所

〔図書〕（計　4 件）

1. 谷口真人『地下水流動−モンスーンアジアの資源と循環』共立出版，2011，272 頁（「コモンズとしての温泉」222-243 頁分担）
2. 長野県立歴史館編『観光地の描き方−浮世絵版画から観光パンフレットまで』長野県立歴史館，2011，79 頁（「吉田初三郎の鳥瞰図に描かれた信州の温泉」62-67 頁分担）
3. 神田孝治編『観光の空間−視点とアプローチ』ナカニシヤ出版，2009，284 頁（「戦前期における鉄道旅行の普及と草津温泉の変容」16-25 頁分担）

〔その他〕

ホームページ等

http://www.edu.gunma-u.ac.jp/~sekido/Tourism/index.html

６．研究組織

(1)研究代表者

関戸　明子（SEKIDO　AKIKO）

群馬大学・教育学部・教授

研究者番号：５０２０６６２９

(2)研究分担者

（　0　）

研究者番号：

(3)連携研究者

（　0　）

研究者番号：